

笑顔で暮らせるまちづくり

# 8050課題を抱えるケースを通して、 地域包括ケアを考える

～事例検討を通して学ぶ～

株式会社 シヤカリハ

Social Re-Habilitation Design.inc (S.R.H.D.)

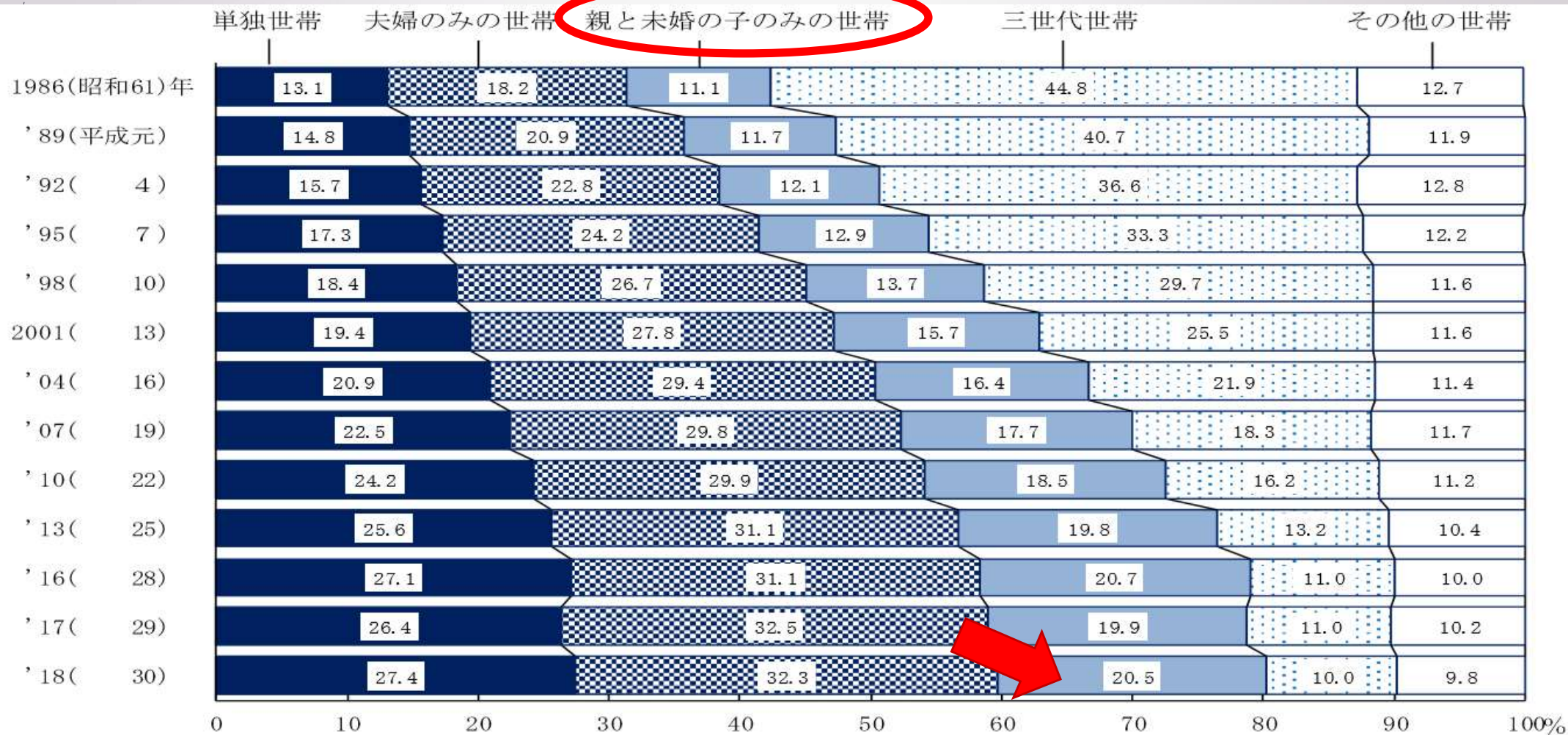
代表取締役 三浦 浩史

syakariha@gmail.com



# 65 歳以上の者のいる世帯の世帯構造の年次推移

平成 30 年国民生活基礎調査の結果



1980年代

ひきこもり=若者問題



10代~20代

現在

8050問題



子ども	40代~50代
親	70代~80代



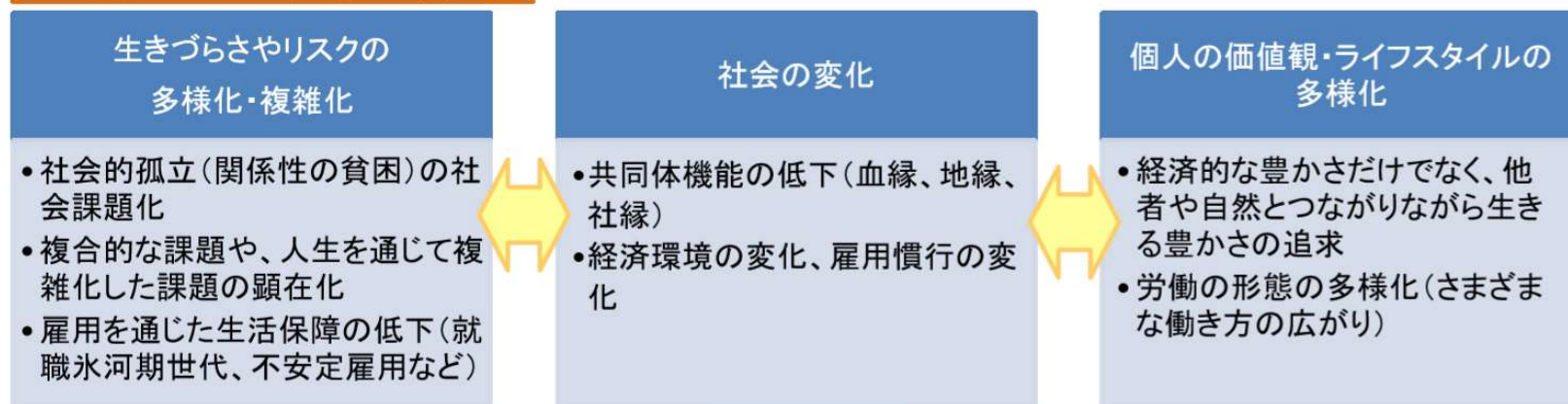
## 個人を取り巻く環境の変化と今後強化すべき機能 (新たな福祉政策のアプローチ①)

令和元年5月28日「第2回地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」資料

### これまでの社会福祉政策の枠組みと課題

- 日本の社会福祉政策は、人生において典型的と考えられるリスクや課題を想定し、個々のリスク・課題の解決を目的として現金・現物給付を行うという、基本的なアプローチの下で、公的な福祉サービスの量的な拡大と質的な発展がみられ、経済的な意味での生活保障やセーフティネットの確保が進展した。
- 一方で、専門性は高まったものの、対象者別の仕組みとなり、8050問題のような複合的なニーズに柔軟に対応できない、人生を通じた一貫した支援が受けられないといった課題が指摘されている。

### 個人を取り巻く環境の変化



- 元来、個人の人生は多様かつ複雑であるが、近年、その多様化・複雑化が一層進んでいると言えるのではないか。
- 典型的なリスクに対応する従来の枠組みの延長・拡充のみでは対応に限界があるのではないか。
- 一人ひとりが、課題を抱えながらも、自律的(※)な生を継続していくことを支援する機能の強化が求められるのではないか。

(※)自律・・・個人が主体的に自らの生き方を追求できる状態にあること

# 「8050問題・課題」とは？

～定義のいろいろ～

- ➡ 80代の高齢な親が中高年代の50代子供の生活を支える状況
- ➡ 80歳代の親と50歳代の子どもとの組み合わせによる生活問題
- ➡ 8050問題とは ひきこもりや発達障害など、社会につな  
がっていない子ども（50歳代）を養護してきた親が高齢化  
（80歳代）し、介護サービスなどの支援につながらず虐待  
などの困難事例となっている問題

# どのような問題・課題があるのか？

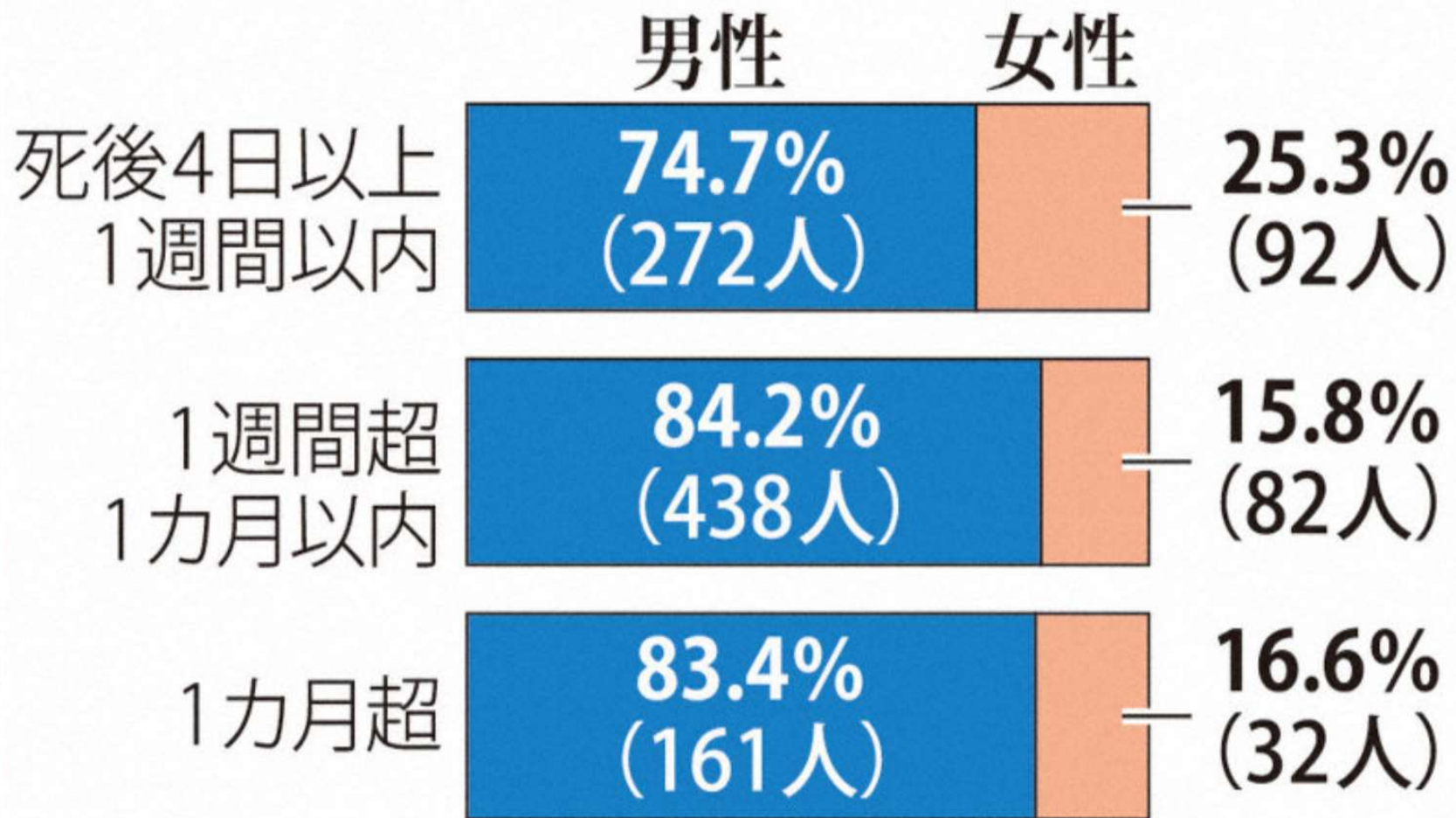
- ▶ 介護と子育てに同時に直面する「ダブルケア」
- ▶ 介護と子育てと配偶者の支援「トリプルケア」
- ▶ 介護離職（介護と仕事の両立）
- ▶ 生活困窮者
- ▶ 障害のある子の親が高齢化し介護を要する世帯
- ▶ 「ごみ屋敷」
- ▶ 孤独死



- ▶ 閉じこもり
- ▶ 不登校
- ▶ いじめ
- ▶ 自殺
- ▶ 精神疾患の長期入院者の在宅復帰
- ▶ 出所者の社会参加
- ▶ 民生委員・保護司・町会役員の減少
- ▶ 制度の狭間



# 大阪市内の孤独死の男女比



※独居の場合。2017年

# なぜ家族はSOSを出せなくなったのか。



- ▶ 表面化しない社会的孤立。親子共倒れになる8050問題も深刻です。その背景には、助けを求められないまま、あるいは求めたにもかかわらず、孤立せざるを得ない家族の姿があります。世間から社会から、自らを隠しながら心労を抱え疲弊していく・・・

**家族丸ごとの孤立**の姿です。

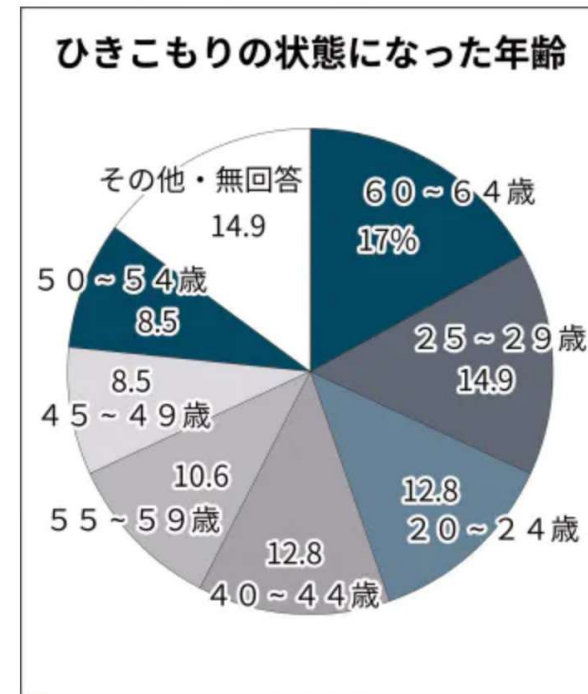
- ▶ 母親は、相談先で「育て方が悪い」「あなたが悪い」などと怒られ、相談することが怖くなり、息子とひっそりと生きてきたという。

## 中高年ひきこもり61万人 内閣府が初調査

2019/3/29 10:26

🔖 保存 📧 共有 🖨️ 印刷 🗣️ 📱 🐦 📘 🌐 その他▼

内閣府は29日、自宅に半年以上閉じこもっている「ひきこもり」の40～64歳が、全国で推計61万3千人いるとの調査結果を発表した。7割以上が男性で、ひきこもりの期間は7年以上が半数を占めた。15～39歳の推計54万1千人を上回り、ひきこもりの高齢化、長期化が鮮明になった。中高年層を対象にしたひきこもりの調査は初めて。



日本経済新聞



# 本人と家族の複合的な課題（イメージ）

支援拒否・  
困難

支援拒否・  
困難

支出問題

父母への  
虐待

住環境問題

社会的孤立

困窮

住環境問題

困窮

認知症

狭義のひき  
こもり

準ひきこも  
り

無職状態

要支援・要介護

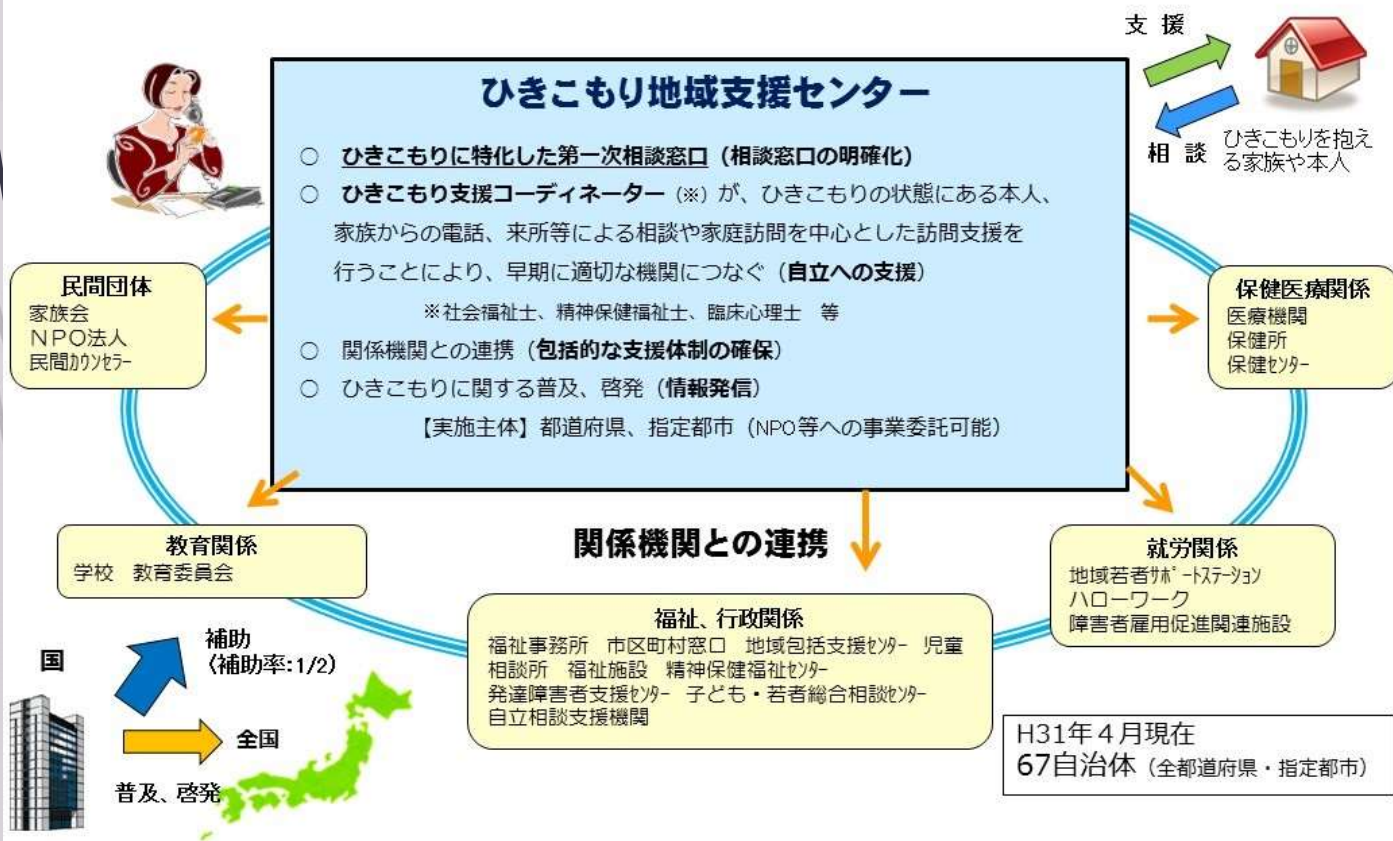
本人

家族

# ひきこもりの状態にある方やそのご家族への支援に向けて

(厚生労働大臣メッセージ一部抜粋)

ひきこもり地域支援センター設置運営事業 (平成21年度～)



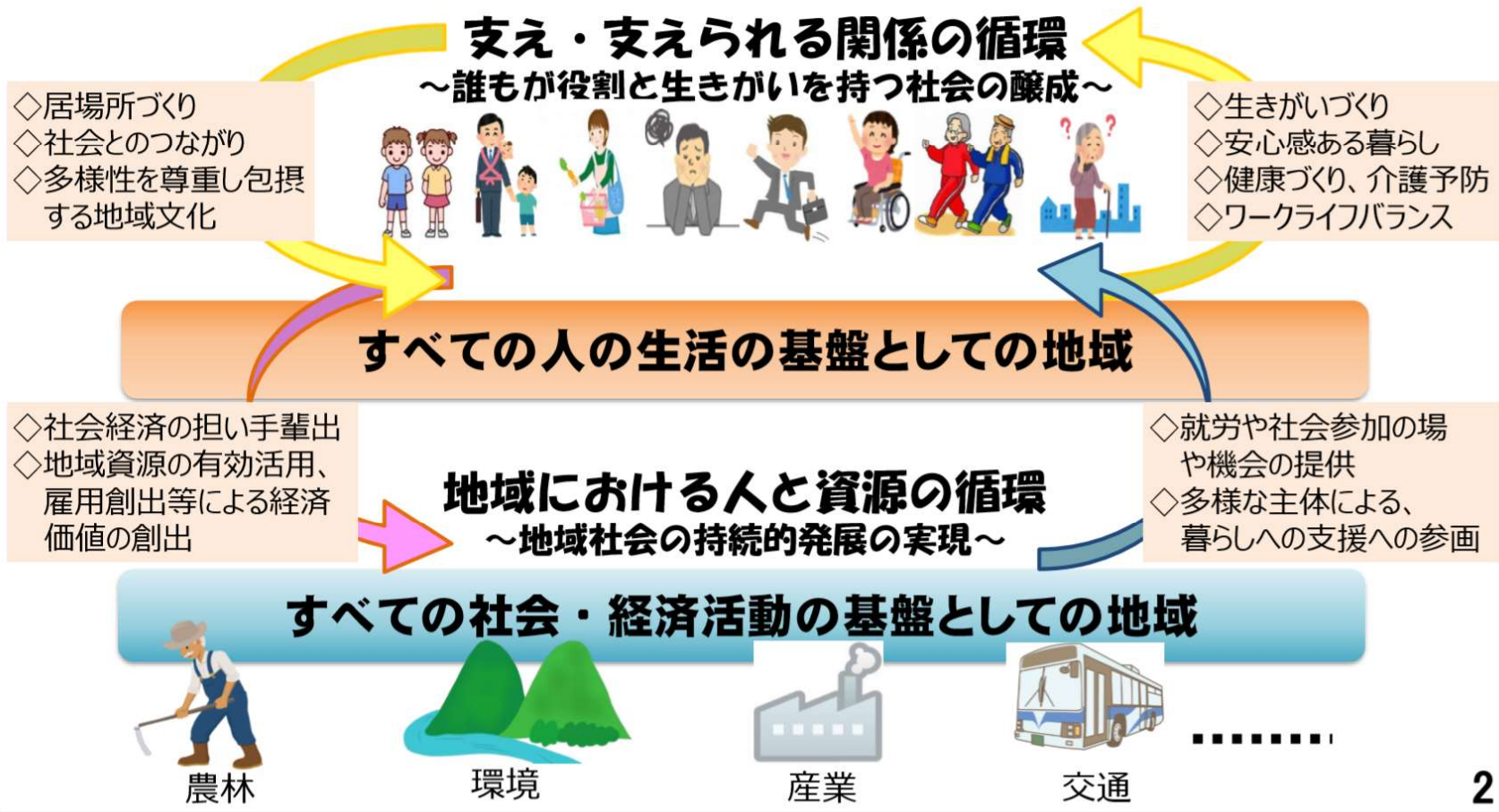
ひきこもりの状態にある方やそのご家族は、悩みや苦しみを抱え込む前に、生活困窮者支援の相談窓口やひきこもり地域支援センター、また、ひきこもり状態にある方が集う団体や家族会の扉をぜひ叩いて下さい。国民の皆様におかれましては、あらゆる方々が孤立することなく、役割をもちながら、ともに暮らすことができる、真に力強い「地域共生社会」の実現に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。

令和元年6月26日

厚生労働大臣 根本 匠

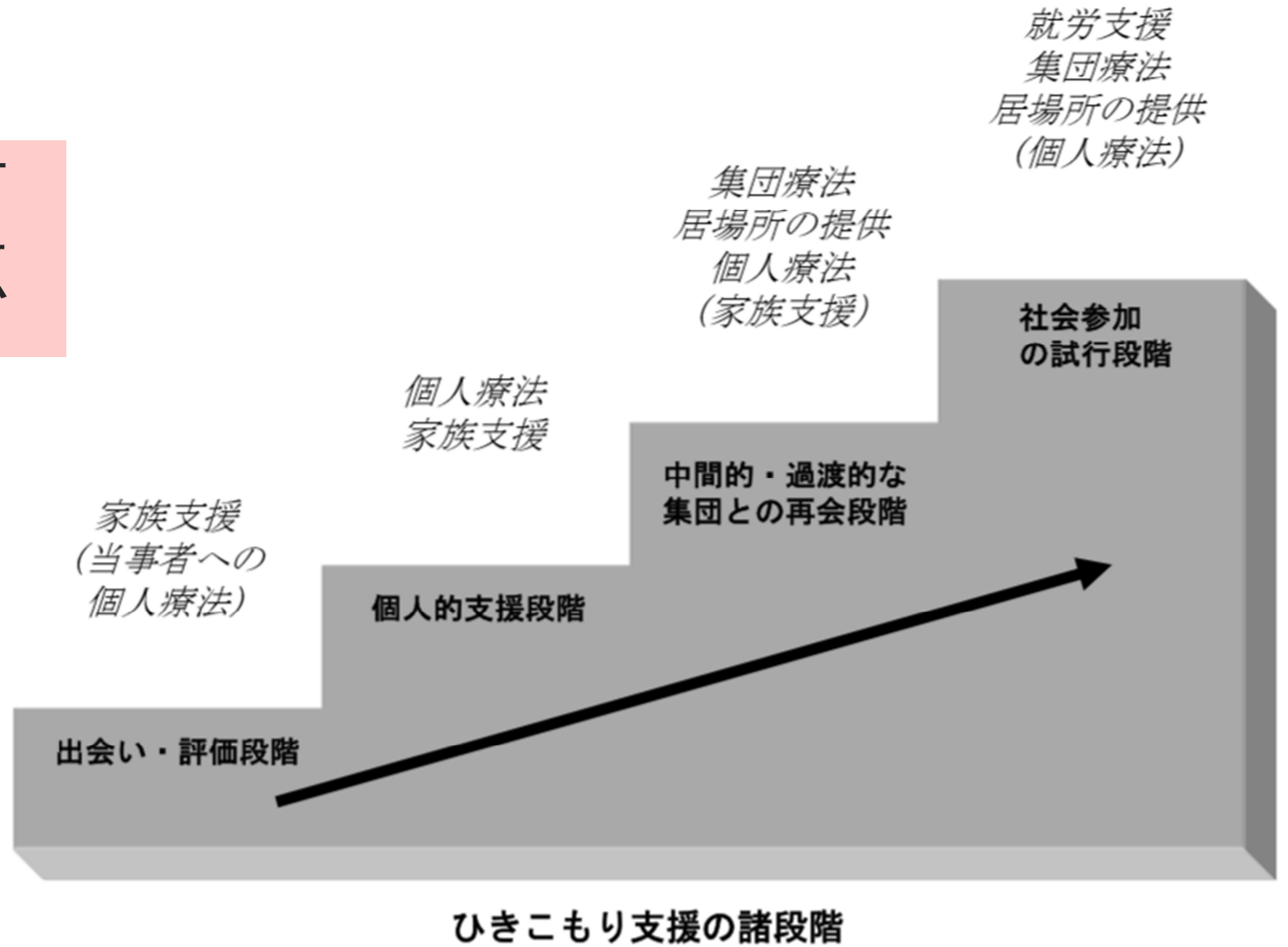
# 地域共生社会とは

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、**住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会**



「地域共生社会」の実現に向けた地域づくりに関するこれまでの経緯

# ひきこもりに対する支援の要点

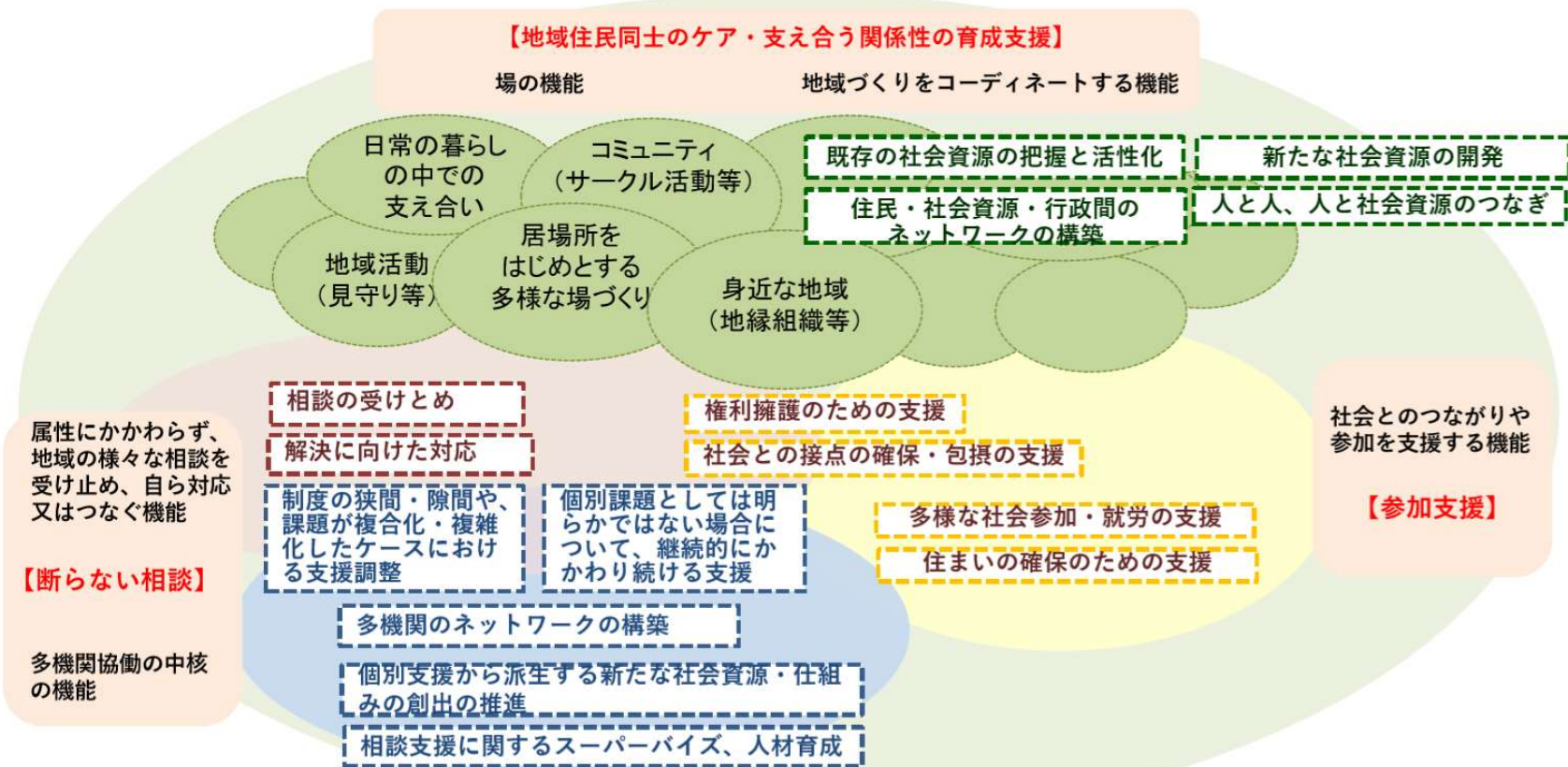


# 新たな包括的な支援の機能等について

令和元年7月16日「第5回地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」資料（一部改変）

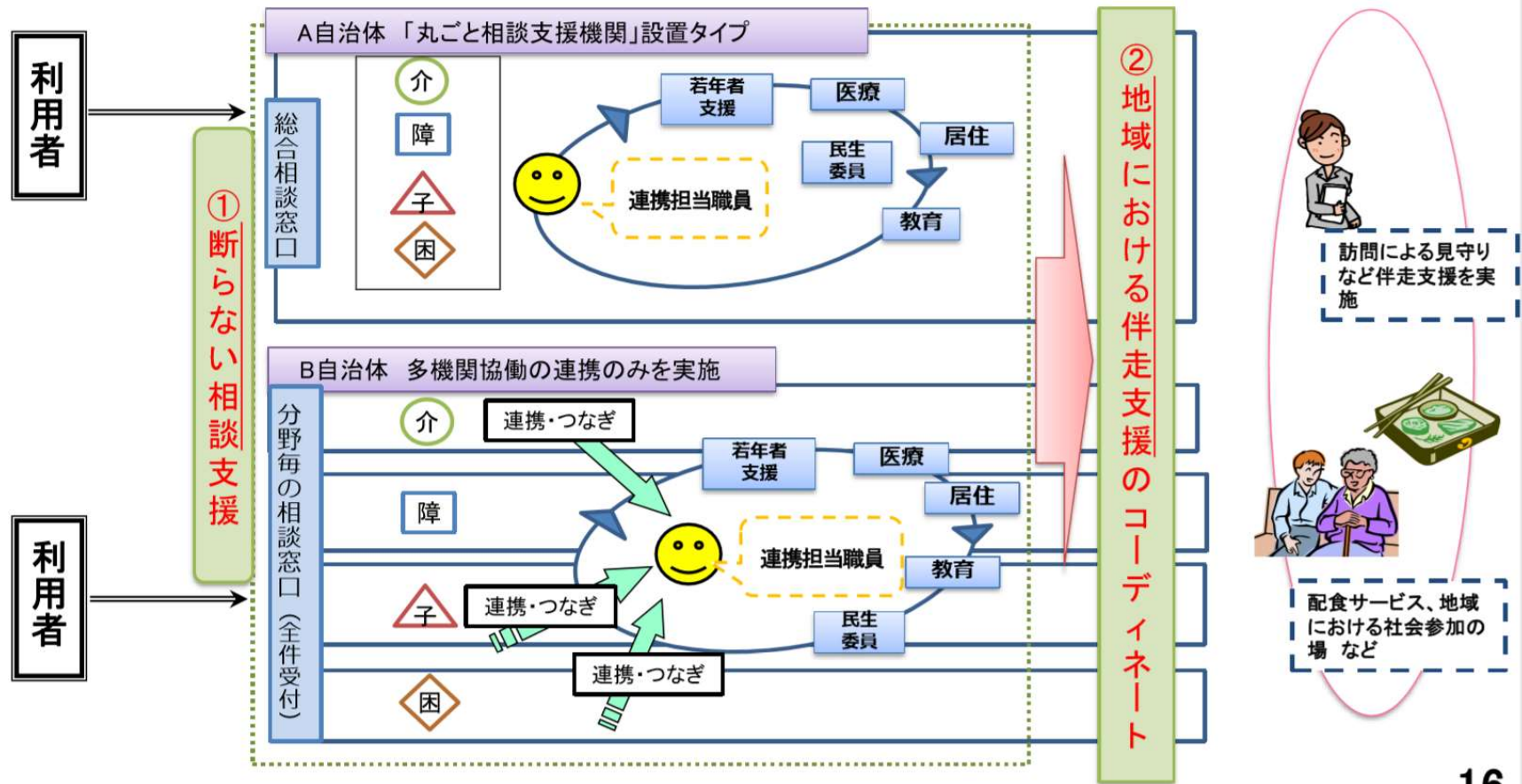
◆これまでのご意見を踏まえ整理をすると、断らない相談と一体で参加支援（社会とのつながりや参加の支援）や「地域住民同士のケア・支え合う関係性」を広げる取組を含む市町村における包括的な支援体制を構築することにより、「つながり続ける」伴走支援が具体化でき、

- 社会とのつながりや参加を基礎とした個々人の自律的な生
- 地域やコミュニティにおける包摂を目指すことができる。



## 新たな事業の支援フロー(イメージ)

- 8050問題など、世帯の複合的なニーズや個人のライフステージの変化に柔軟に対応できるよう、市町村において断らない相談支援を中心とした包括的な支援体制を構築する。
- また、多様な経路で社会とつながり参加する機会を確保する観点から、断らない相談支援と併せ、個人のニーズに合わせた就労支援、居住支援などの“出口支援”や、地域における伴走体制の確保のための取組を実施する。
- 各自治体における包括的な支援体制は、地域ごとの資源の状況などの多様性を踏まえる必要があり、各自治体が、創意工夫を活かしながら柔軟に、その構築を進められるような制度設計とする。



「断らない」

「諦めない」



## 「つながり続ける」 伴走支援

- ➡ 【断らない相談】
- ➡ 【参加支援】（社会とのつながりや参加の支援）
- ➡ 【地域住民同士のケア・支え合う関係性】





# 事例から学ばせていただきます！

お願いいたします。



株式会社 シャカリハ

Social Re-Habilitation Design,inc (S.R.H.D.)

代表取締役 三浦 浩史

[syakariha@gmail.com](mailto:syakariha@gmail.com)